

北海道から 岩手県へ

氏名 工藤慶文

北海道江差高等学校 → 岩手県立水沢高等学校
(期間：平成30年4月1日～令和2年3月31日)

1 派遣先校について

派遣先である岩手県立水沢高等学校は、令和2年度には創立110周年を迎える伝統校であり、「友愛・清新・気魄」をモットーに様々な教育活動が展開されている。また、バンカラの応援団もあり、各行事を盛り上げている。さらに、平成15年度より文科省からSSHの指定を受け、平成29年度には4期目の指定を受け18年目の取り組みとなり、未来を担う国際的に活躍しうる科学系技術人材の育成を担っている。



2 派遣先の学力向上等の取組

- (1) 進学支援ネットワーク：県の進学事業で、ハイレベルな内容を扱う講座が設定されている。各予備校などから講師が招かれて実施されており、参加した生徒たちからも充実した内容であることを耳にする。
- (2) 臥竜会：(1)で述べた事業による講座に参加した生徒が先生役となり、参加しなかった生徒を対象に、受講内容を伝える取り組みである。指導側は受講内容の定着、参加する生徒側は参加できなかった講座内容の把握ができ、お互いに良い刺激となっている。
- (3) 全県的な観点別評価の確実な実施
- (4) SSH事業・課題研究：理数科のみならず、普通科文系クラスでは「Social Science Research」、普通科理系クラスでは「Science Research」を学校設定科目として位置づけ、生徒自身の興味関心や進路を見据えたテーマ設定から調査、発表までを主体的に行っていた。大学の先生方にもアカデミックな助言をいただくことで深い学びに繋がっていた。

3 北海道に戻って実践したいこと

2年間で学んだことは列挙しきれないほどあるが、何より大事にしていきたいのは、岩手の先生方との繋がりである。地理的要因、教育環境の違い、教育的風土の違いなどにより、それぞれの都道府県で適すること・適さないことは異なるが、見方を変えれば見えるものが

変わってくるため、今後も情報交換を密に行っていきたい。

- (1) 統一的な観点別評価の模索：指導と評価に関しては、自分自身まだまだ研鑽が足りない部分だと感じている。学校毎の狙いや目標を踏まえた適切な教育活動のもと、評価の在り方についても改善していきたい。
- (2) さらなる授業改善：学校としての狙い・教育目標・重点目標を意識し、生徒が主体となり深い学びに結びつく授業展開の熟考を今後も継続して行う。
- (3) 進路指導の充実：地域差が最も大きいと感じた部分である。北海道と比較し、生徒自身や保護者の方が進路先を比較的広く検討する傾向があり、それに呼応し、教員側も全国的に広く進路先の情報を持っていた。指導に当たっても教員間での情報共有が密であった。

4 最後に

再度、この場をお借りして、2年間受け入れてくださった「水高」のみなさんや、人事交流の機会をくださった北海道教育委員会の関係者の方々にお礼申し上げます。特に、派遣先の先生方には、仕事のことだけでなく、岩手での生活についてもたくさんのお気遣いをいただき、慣れない中での生活への不安などなく、過ごすことができました。ありがとうございました。